

技術士だより

(社) 日本技術士会九州支部・九州技術士センター春季号<第63号>(平成17年3月15日発行)

巻 頭 言

技術思考の原点は哲学なり

九州支部 CPD 委員長 光岡 毅 (建設・福岡)

昨年からのところ地球規模の未曾有の災害が多発している。新潟中越の大地震もその直前の台風ともあいまって被害を大きくしている。スマトラの地震と津波は規模といい被害の規模も歴史上最大のものといっている。またアメリカ、ヨーロッパの気象も異常なものと報道されている。

スマトラの津波被害は、マングローブなどを伐採して建設したレジャー海岸施設への多くの国々からのレジャー客の増加が人的被害を大きなものにしてきている。また、産業革命以降の技術の発達は著しいもので化石燃料の消費量も年々増加しており、空気中の炭酸ガスの増加が地球温暖化をもたらした世界的な異常気候との関連ともいわれている。

災害・公害その他、われわれの生活に影響をもたらすものは自然から与えられた不可抗力なものだけではなく、われわれが生産過程において作り出したものも多くありこれはもとから改善すべきだという考えとなってきた。つまり、技術が関わりを持ち何かを建造し製造する場合には、最初計画するときからその結果まで責任を持って予測し追跡してゆかなければならないということである。

周りの社会を知らない、あるいは、周辺は自分とは無関係であると決め付けてわが道を行くという態度をとる技術馬鹿は許されなくなっている。

ダム建設においても、周辺社会生活の幸福に結びつくのかを、まず把握することが求められている、下流の洪水対策上この地点で一時貯留しておくことが必要であるという流量計算上及びダムの岩盤状況で水圧や地震力に対して安全であることを確認して建設計画が始まってきたが、従来の工学・技術より奥にある総合的なシステム、つまりダム建設による社会システムの変化を捉えた論議が必要になっている。

昔、先輩たちが工学とは数学物理学を基本とするものであり、社会システムなどは工学研究の範疇でないと主張する人がいた。今こそ工学・技術者たるべきは社会システムの基本を踏まえておく総合監視技術が必要だと思う。

欧米の学位は Ph.D という哲学博士の称号である。例えばニュートンの論文のタイトルは、「自然哲学における数学的諸原理」という哲学の一部として数学があるという考え方で、哲学の思想を踏まえたものとしてそれぞれの分野に哲学博士 Ph.D という学位が与えられているという。その基礎に哲学ありきというわけである。

哲学には、その手法・思考過程の厳密性と取り扱うテーマが重要である。ヨーロッパの哲学では絶対的な神と現実の人間の位置付けとの関わりが主要な論点であった。わが国では、島国という地形が影響しているのか神と人間とのかかわりはあまり深刻でない、そのため哲学に関心が薄かったのか。

いずれにせよ、明治政府以来の政策的に西洋の宗教と哲学を排除する基本方針のためか、工学・技術においても哲学にまで踏み込んで行く伝統がない。しかし、工学・技術に携わるわれわれは哲学に戻らなければならないと思う。このためには、技術の対象となる思考の原点を哲学に見出し、関連する周辺の社会・生活・技術及びそのシステムを広く学んでいかなければならない。

例えばダムをテーマとして取り上げる場合、「幸福な社会生活」と「ダム」について位置付け、必要性などに厳密な思考を行いその過程を論文に発表して、社会の評価を得た後、建設計画に取り掛かるという手続きも必要になってくるかも知れない。ここで論じているのは既存のアセスメントで行う周辺環境の個別の議論でなく、もっと根本的な観点で論議するものと考えている。

このような観点から、CPD 委員会では例えば、次回には「災害」という大きいテーマをとりあげる予定であり、いくつかのより広い観点からのテーマによる講演会とし、支部の会員の皆様により良いサービスを提供できるよう努力していきたいと思っている。

建設コンサルタントとしての業務内容変化について

島内 明（建設・佐賀）

私は、地盤関係の建設コンサルタントに従事している土質の技術士です。平成3年に技術士登録をして、早14年経ちました。2,3年前までは、県、国発注の公共工事絡みの調査設計業務が主体でした。私共の会社では去年から、裁判(調停)関係、個人の住宅取得に伴う問題点相談、及び特許開発の補助が新たに業務項目として加わってきました。

裁判(調停)関係は、造成工事後に建物を建てた所有者から訴えられた施工会社からのご依頼でした。この物件は、造成後の地盤変位による擁壁クラック発生が建物の安全性を脅かしていると、建物所有者から訴えられた施工業者側に責任があるかどうかです。調停が始まり3年が経過して、専門的技術段階で行き詰まり、地盤の専門家に解釈を求められた物件でした。私は、それまでの調停経緯を聞き取り、踏査による地盤状況把握をし、地盤工学的解釈を弁護士の方の質問事項に答える形で、提出しました。調停は訴えた側に対する応答を、裁判所を通して行うため、時間がかかります。辛抱強い対応が求められる業務です。また、ある程度法律を理解していなければなりません。

個人の住宅取得に伴う問題点相談は、手付金を支払ったが、家のまわりのベランダが傾いている、どうしたら良いか、地盤状況を見てください、ということから始まりました。見に行ったら、建物自体の変位は認められませんでした。建物周辺の庭、玄関部等の盛土部が沈下し、建物との間に不同沈下が生じていました。造成地は、風化花崗岩の岩盤部と沼地の境目にあり、沼地を盛土した所がありました。依頼者には、造成地の地盤環境、建物と盛り土との関係、及び将来予測事項を説明しました。

特許開発の補助は、ある電力関係の施工会社から営業競合会社に対抗できる工法開発を技術士の立場で支援してもらえないかという物件でした。設計条件、問題点、解決原理等を整理し、現在、工法アイデアを相互打合せしている段階です。

これらの3種類の業務に共通していることは、地盤工学に関する専門的な解釈判断を、顧客から求められているということです。いずれの業務も、契約締結後、業務を責任を持って推進し、顧客との密接な打合せが必要となります。従来業務と違うことは、顧客が明確な利益目的を持っているということです。この目的に添って、自分が持っている地盤関係の技術を提供していくことが求められています。

なお佐賀県では、ローカル発注が進んでおり、地元業者の誠実、確実、明確な技術的対応が、県から求められています。我々県内業者は、県職員との技術的信頼関係は、昔からコツコツと築いて来ました。

また私の会社に、関西のある大手の建設コンサルタント会社から、ある土質試験をキーワードにして検索したところ、会社のホームページに載せていた特殊土質試験が検索された、と電話がありました。まったく面識が無い会社同士でありましたが、初回の電話で技術的な信用が確立し、今回受注することが出来ました。

以上より、これからの技術士に求められることは、①技術者の狭い立場で対応するのではなく依頼者の立場その周辺の技術環境を考慮した対応、②自分の専門分野にこだわるのではなく自分の出身基礎分野をベースにして周辺技術及び法律関係にも造詣を深くし柔軟な技術対応とサービスの提供、具体的には専門用語を使えば説明は簡単に行うことが出来るが相手の理解程度に合わせての説明、③従来の営業形態にこだわらないHPを利用した営業の活用、であります。

これから私共は、建設コンサルタントの営業基本は顧客に対する技術の信用信頼であることを意識し、従来の業務(県、国発注の公共工事絡み)ばかりではなく、自分たちの持っている技術を発展させ、社会変化に対応していく技術を開発提供し、日本国民全体の発展に貢献していく所存です。

理事会等 概要報告

(社)日本技術士会 理事 小出 剛 (農業・福岡)

前号から本号までに、11月理事会、1月四役・常設委員長会議、1月理事会及び11月、1月には理事会前に組織・制度改革本部委員会と主要な会議がありました。11月理事会は、理事会に先駆けて1週間前に開催された四役・常設委員長会議の概要を前号で報告しましたので、本号では主な項目だけを記しておきます。

I. 平成16年度第4回理事会

(平成16年11月17日)

1. 顧問の委嘱・野沢元法務大臣 (建設部門)
2. 会費見直しと17年度予算案作成方針決定
年会費2,000円減額のもとで予算案作成
3. 防災特別委員会継続と委員の委嘱21名
九州支部から清水博和先生が再任
4. 役員選挙管理委員会委員の委嘱25名
九州支部から水上信照先生が再任
5. 新潟中越地震・義援金受付決定

II. 平成16年度第5回理事会

(平成17年1月19日)

(審議事項)

1. 平成17年度事業計画・収支予算について
一般、受託、指定別に事業計画の説明あり、一般事業では、技術士ビジョン21の実現に向けた行動として、組織・制度改革本部、CPD 証明特別委員会、ビジョン策定特別委員会、各常設委員会でアクションプランの作成を基礎とする。

指定事業では、試験・登録事務体制強化策として、試験センター試験管理室強化と試験問題検討委員会(仮称・現在の試験特別委員会を包含)の設置、各支部からの試験・登録事務支援体制整備・強化を図る。収支予算の主な事項は、年会費2,000円減額対策と技術士ビジョン21アクションプラン実行初年度に当り、経費3,000千円を計上。

2. 臨時総会の日時・議題等決定について

17年3月17日(木) 15時~16時30分、

於：虎ノ門パストラル

議題：会費の変更及び17年度事業計画及び収支予算について。

3. 国際特別委員会の設置について

国際的な後方支援、APEC エンジニア及び EMF 国際エンジニア等技術者相互承認枠組みの運用の支援、海外の技術者協会及び技術者協会連合との協力、その他、国際活動に関する必要な事項に関し、日本技術士会の国際活動を総合調整し、統括する目的で設置する。

4. 建設系CPD協議会「CPD情報閲覧・検索システム」構築への参加について

建設系の関係学協会でのCPD推進に係る連絡や調整を図ることを目的として、「プログラム情報検索・閲覧システム」を構築し、17年4月から運用するこの協議会から当技術士会へも参加要請があり、参加学協会CPD情報を関係会員が自由にWebによる閲覧・検索等が可能であり、技術士会知名度向上の観点からもプラスとして、参加する事に決定。技術士会は初年度284千円、次年度から114千円の負担となる。現在の参加は当技術士会を含めて11学協会。今後、建設系以外の学協会でも同様の事が予測される。

5. 技術士CPD登録証明書の発行について

九州地整局の記者発表に端を発した「発注機関のCPD登録証明書活用」に資するため、九州支部から理事会への強い働きかけにより、16年7月に「CPD証明特別委員会」設置、9月理事会で構成員を決定、これまでに4回の委員会を開き「CPD登録証明書発行」のための具体的方策案がスピーディーにまとめられた。これにより、17年度当初からの証明書発行が可能となった。登録、証明書発行手数料については、勿論会員有利の方向で検討中で、3月理事会で決定する事とした。

(報告事項)

1. 「組織・制度改革本部」第2回本部委員会議報告(次の本委員会報告の項)

2. 平成17年度役員選挙日程について

選挙管理委員会では12/7の委員会で選挙日程を決

め、理事会報告の後月刊誌、HPに掲載、2/15の委員会で選挙マニュアルを策定し、支部、部会に周知し、HPに掲載された。

① 4/1：推薦依頼活動開始 ② 4/13～20：届出期間&選挙広報原稿提出期間 ③ 4/21：選挙運動開始 ④ 5/9：投票用紙、選挙広報を会員へ配送 ⑤ 5/31：投票締切（12時）開票（13時）⑥ 6/24：定時総会で選挙結果報告。なお、役員選挙関連規程変更により上記日程を遵守しない場合は選挙違反となり、当選無効となる事から、くれぐれもご留意願いたい。また、選挙権のある方は平成17年2月末日までの入会会員で、被選挙権のある方は平成16年2月末日までの入会会員の中で昭和9年7月1日以降誕生された方となっている。

3. 平成18年技術士全国大会の日程・会場について

12/15の第3回全国大会運営委員会で、次の通り決定した。①平成18年9月6日（水）とする ②会場は工学院大学（新宿キャンパス）及び京王プラザホテル（新宿）とする。

4. 平成16年新潟県中越地震の義援金報告

会員各位から992名のご賛同を得た義援金は3,845,000円となり、払込手数料を差し引き3,776,960円を1月20日、清野会長、津田理事（北陸）、中山北陸支部長から新潟県庁において、知事に手渡された。日本技術士会としても支出し、端数整理も行う事の発言が理事会であったが、あくまでも会員各位の浄財であり、このままの送呈と決定した。拠出下さった支部会員各位に深く感謝申し上げます。

5. 業務委員会報告について

特に「技術士の活用促進」について、これまで2ヵ年の進捗状況を纏める段階であるが、成果も各部門で幾つか出ている。ごく最近の一事例として、「技術士会推薦でのJABEE審査員を！」の全会員からの要望に対し、文科省及びJABEE当局の理解を得て、1月の新人審査員研修に参加される70名余の会員が日本技術士会推薦の審査員候補として関連分野学会にも登録される計画。更に、2月には日本経団連とJABEEの企画によるシンポジウムにも技術士会役員はじめ多くの会員が参加する予定である事（委員長も、両方に参画）。これら1月研修と2月シンポジウムは業務委員会から、支部長・部会長を通じて全会員に参加を呼びかけた成果でもある

事。技術士のJABEE参画は現在のところステータスの向上であり、やがてはビジネスチャンスへの移行が期待出来る事を披露した。

6. 平成16年度技術士第一次試験結果

16年度第1次試験は20部門で42,084名受験21,136名の合格者（50.2%）で、合格率の最も低い部門は「応用理学」の31.0%、高い部門は「原子力・放射線」で84.4%であった。

（その他省略）

Ⅲ. 「組織・制度改革本部」第1回本部委員会議報告（検討すべき基本事項の自由討議）

（平成16年11月17日・理事会当日の午前中）

この改革本部は「技術士ビジョン21」の実行計画（ロードマップ）部隊と位置づけされた。

1. 組織率向上策

①組織率50%目標達成への武器としてメリット論 ②支部組織での受託体制整備 ③CPD登録・証明制度のフル活用 ④県→支部→本部の構造を明確に ⑤職業法的扱いの強化 ⑥入会率の低い部門別、地域別の検討必要あり。

2. 部門区分の検討

①現状では細分化の限界に来ている ②平成12年の部門見直し委員会では15程度に括る案も出たが最終的には5年間凍結の形となっており、これからが勝負だ、技術士会が先手を打つべきである ③古い呼称の部門名も改正すべき ④学問の体系、社会の業際的体系、国際性等との整合性を加味すべき。

3. 今後の進め方

当委員会が方向決定し、幹事会で詳細検討を行う。17年5月までに骨組みを作る。

Ⅳ. 「組織・制度改革本部」第2回本部委員会議報告

（平成17年1月19日・理事会当日の午前中）

1. 検討項目と検討の方向

①日本技術士会のあり方 ②事務局組織のあり方 ③委員会等組織のあり方 ④部門区分の検討 ⑤定款を含む諸規定のあり方 ⑥会員組織率50%以上達成に向けた行動の六つに区分して検討する事とし、差当り①と⑥を先行して討議する事となった。

平成16年度九州支部事業について

九州支部 支部長 泉館 昭雄（電気電子・北九州）

振れ巾の大きな昨年其自然でした。季節の走りも違ってきたようです。

一方、私共九州支部の事業は、会員諸先生のご活躍により極めて活発に推移しております。各地区活動も又活発に行なわれております。ここでは、支部の主な事業について、事業項目と課題についてその概要を記します。

1. 支部 IT 化；田中前支部長時代から IT 委員会（大里委員長、14名）が主導、精力的に進められてきました。約80%の会員に mail で送信するシステムが稼動しています。課題は、本システムの定着化（H・Pシステム、アドレス修正を含む）、未利用会員の解消及び利用範囲の拡大（支部会計、名簿登録、宛名印刷等）です。このためには、PC 増強及び作業スペースが必要です。
2. 全国大会（福岡）；H16年1月、準備委員会（池田副支部長）が立ち上がり、2月から全国大会実行委員会（甲斐委員長、27名）が精力的に活動を開始しています。去る12月4日には、プレ全国大会を、「産学官と技術士との連携セミナー」と共催しました。約250名が参加、会長講演も頂き盛会でした。毎月各種企画会議をしております。活動の密度が濃い事から、本委員会に参加する会員が福岡・北九州地区会員に偏っている事が課題です。8年ぶりの10月19日の本大会に向け、全会員のご参加を願うものです。多くの検討事項があります。
3. CPD；第2STEPが8月からスタートしました。第1STEP（内山委員長）の成果を踏まえ、更に本部、支部、地区との連携を計る事並びに第三者から評価される活動となる事を眼目に執行部（是永副支部長）主導で構想化し、早速にCPD委員会（光岡委員長、42名）は活動しています。年4回開催のうち1回は地区で開催することとしました。第二回CPD研修会は、佐賀地区（藤永代表幹事）で、第11回西日本技術士研究・業績発表会と共催します。

4月から、CPD実績登録証明書を、本部が発行することが決まりました。CPDの収支は、自己完

結型が基本ですが、本部から今年は60万円別途に補助金を受けています。前記方針の定着化及びCPD登録率の大幅な向上が課題です。

4. 一次、二次試験管理；試験管理委員会（斎藤委員長）と古賀事務局長が対応しています。本件は本部試験センターからの受託業務です。一次、二次受験者数は、H16年度は、各々5,105名、1,344名でした。計監督者（補助者を含む）は、380名、という大仕事です。昨年末、従来の九産大、西南大教室が借用できないことが判明、急遽九大と折衝し、了解を頂き、H17年度二次試験会場は、九大会場に変更することが出来ました。なお試験会場増設委員会（藤永委員長）は、九州支部内での会場増設必要ない事を結論しました。
5. 青年部会；H16年2月の修習技術者委員会（本部）を踏まえ、今後予想される若手技術士への対応を考え、執行部主導（是永副支部長）で構想、H16年5月総会で承認いただき、7部会（田辺部会長、250名）が活発な活動を開始しています。定着化、と一層の活動が期待されます。
6. 業務開発；技術士の活動舞台開拓に向け、業務開発委員会（松尾委員長、12名）毎月1回検討会を開催しています。技術士会の特色を理解いただき、協業したいとの動きが具体的に出てきています。K-RIP、中小企業基盤整備機構審査案件（80件）、“全国ものづくり”事業関連、他幾つかの九州全域対象とする案件が進んでいます。昨12月、科学技術評価グループが立ち上がりました。更なる業務開発とともに会員の積極的参画とその仕組みづくりが課題です。
7. 広報；技術士だよりは、年4回広報委員会（棚町委員長、14名）のもと確実に刊行されています。更に幅広い広報、例えば企業、官庁、協会、学会、等に向けた広報活動をどうするか検討したいと考えています。
8. 定例事業；総会、合同役員会、常任幹事会、各種常設委員会、一火会、新人合格者祝賀会、忘年会、会計監査、会員名簿作製（町田先生）、部会

研修会、見学会、本部主催行事・会合への参加等があります。

総務委員会(池田副支部長、吉竹委員長)並びに古賀事務局長が総括しています。なお、昨年8月から松尾先生に事務局をサポートして頂いています。

9. 災害・技術支援；委員会(清水委員長、95名)は、中越地震報告書、委員会パンフレット等を多数の地方自治体訪問し説明しております。
10. その他；産官学連携が、種々のフェーズで進展しています。これらの動きにいかに対応するかが課題です。昨年8月から9月にかけて、中国三峡ダ

ム現地研修会、38名参加し有意義に、成功裡に実施できました。報告書も作製しました。

11. 会員増強；H17年度は、技術士会全体として2000人増が要請されています。支部は、人数スライドであれば200人増となります。強力な会員増活動を願います。

まとめ 多くの事業が並行して走っております。足元をしっかりと見据え、全国大会をはじめ、済々と事業展開することに向けた、全会員のご努力をお願い致します。次期は、産官学連携を主軸とした、多方面の、多角的連携が課題となると考えます。

平成16年度 第4 / 4期 九州支部 CPD 研鑽会

九州支部 CPD 委員 末松 正典(機械、総合技術監理・北九州)

平成17年1月29日(土)福岡商工会議所にて九州支部主催によるCPDが実施されました。九州支部CPDは土曜日集中(6時間)、4回/年という参加しやすさと効率性を考慮した方法により実施中で、今回は、最後の演題を除き“自然”をテーマとして研鑽を行いました。

- ①【A-2】「遺伝子あれこれー生命の謎を探る小さな旅ー」

堀勝治氏(佐賀短期大学副学長・理学博士)

- ②【A-4】「潜熱を利用する気象工学の数例」

鈴木義則氏(九州大学名誉教授・農業博士、九州学園理事)

- ③【A-2】「気候と植生ー地域植生と植栽についてー」

山口和行氏(財佐賀県緑化流通センター 事務局長)

- ④【B-2】「プラントエンジニアリングと技術士の関わりについてー高速重荷重台車の技術課題を例としてー」

沼尻健次氏(日本技術士会会員)

今回の支部主催CPDも盛況で、出席者数も約100名と多数の参加となりました。

議題①では、次の4点について平易に解説された。(1)DNA・遺伝子・染色体それぞれについてと、3者の相互関係、(2)遺伝子の働きにおける、遺伝子の複製と情報発現、遺伝暗号、突然変異、変異原について事例を交えた説明、(3)遺伝子とタンパク質のつながりを理解するために、身近なヘモグロビンを取

上げた説明、(4)多くの病気の原因となっている突然変異について、ヘモグロビン遺伝子を事例とした説明。

議題②では、気象学は自然認識の科学だが、技術化という工学の視野が必要であるとの観点から、“水の相変化における潜熱を利用した気象工学”の例を、次の内容を展開して解説された。(1)近年の気象の異常度合い、(2)地球温暖化とそのメカニズム、(3)潜熱活用気象工学。このうち(3)では、農業気象災害対策として、霜害対策の事例、都市のヒートアイランド抑制として屋上緑化や保水性セラミックス活用の事例、水資源確保のための液体炭素を用いた人工降雨の効果、について詳細に説明された。

議題③では、我が国が敗戦後の復興策の一つとして植林が施され、現在全国で1000万haが人口林となったが、その後の経緯、問題・課題と、今後の対応方法について解説された。戦後の植林による現在の課題は、適地適木を誤った植栽地での植林成長の停滞、及び手入れ不足による植林の荒廃化にあること、そのための対応には、地域住民が参画した上で、地域の植生とその遺伝子を壊さない生物多様性を念頭に置いた地域遺伝子豊かな個性ある森をつくること、と提案された。

議題④では、技術士受験啓発のため、大学生等を対象にした実務と技術士の関わりを、講演者が企業在籍時に体験したプロジェクト「連続鋳造プロセスと圧延プロセスとを連続した高保温・高速重荷重台車の設計製作プロジェクト」を例にとりビデオにて説明があり、「プラントエンジニアリングにおける技術士の関わり」として紹介された。

業務開発とCPD

業務開発委員長 松尾 憲一（機械、総合技術監理・福岡）

最近、技術士会を取巻く社会の枠組みが、急速に変わりつつあるという風を感じる。それは2月16日の京都議定書の発効でもあり、経済産業省の積極的な動きでもある。その具体例を以下に説明しよう。

1. 九州経済産業局の課長殿が事務局に来所

2月14日(月)、2月度業務開発委員会の開催を活用して、九州経済産業局産業部中小企業課の倉光課長と外垣総括係長が来所された。

今まで、お役所の課長さんが来所されたことは2度程あるが、午後5時半に合わせてよいから法案の説明をさせて欲しいと言われたことは無かった。今次国会で審議されるであろう「中小企業新事業活動促進法（仮称）」という法案である。

倉光課長が説明された内容を抜粋すると、

- 1) 発想段階から物を実際に売って儲けてもらうまで、我々はお手伝いしたい。企業の経営革新を全面的に支援していこうと考えている。
- 2) 事業化のステージの中で、最初の基礎的な技術開発から最後の売れる商品づくりまで一貫して取り組みたい。
- 3) このためには、技術士の皆様に是非ともお知恵を頂いて、案件の技術的な前進を期待したい。
- 4) 九州経済産業局としては、これから大いに情報提供をするので、協同作業をして頂きたい。

この後、外垣総括係長から30頁にわたる施策のご説明があった。

要するに、新法のエッセンスは、

- 1) これまで中小企業をサポートしてきた3つの法律を一体化し、使い易さ、分かり易さを追求して、関連施策体系を整理・統合・充実する。
- 2) 中小企業の市場化・事業化への取組みを一貫し

て強力に推進する。

- 3) 新連携支援という柱を付加し、我が国経済社会を巡る劇的構造変化に対応して、中小企業者は、他者との連携によって相互の経営資源を補完し、高い付加価値を実現し得る「新連携」によって確かな経営革新に結びつける。

2. 新事業活動促進法と技術士との関係

倉光課長が述べられた内容は、これからの九州経済産業局と日本技術士会九州支部との関係を的確に表現されている。

今までの中小企業政策は、良いと考えられる事業化案に補助金を出せば成功するという思い入れがあったが、それではどうしても経営基盤がしっかりした中小企業やベンチャー企業ができない。そこにこそ、商品の発想段階から、これを市場に出して儲けるまで、我々はお手伝いをするという発想の転換が認められる。

そこで日本技術士会九州支部は何をするのかということになる。ものづくりでは、現場・現物で苦勞してきた技術士の存在がクローズアップされてきた。例えば、九州地区に「新連携プロジェクト」が年間30チームほど立ちあがり、1チームに少なくとも1人の専門技術士が付いて支援することが考えられる。このためには、中小企業の経営革新に妙案ありと手を上げる技術士が輩出しなければならない。

社会貢献につながるプロジェクトがあることによって、技術士のCPDが効果を発揮し、研鑽する態度や目の色が違ってくるのではないだろうか。

技術士の皆さんが、日頃の実力を大いに発揮し、経済社会のために貢献することが期待されている。

第32回全国大会(福岡)、内容変更のお知らせ

全国大会実行委員長 甲斐 忠義

(1) 記念講演会テーマの変更

全国大会記念講演会テーマは、①我が国を代表する研究 ②世界に通用する研究 ③実用化に近い ④九州での研究という観点から、昨年2月決定しましたが、下記のように変更いたしました。

旧 「海洋温度差発電について」(H14年度COE*採択) 佐賀大学、上原 春男教授

新 「水素利用社会実現にむけて」(H15年度COE*採択) 九州大学 村上 敬宣教授

変更事由 平成16年度、文部科学省の、COE中間評価結果による。

* COE；CENTER OF EXCELLENCE（我が国を代表する研究開発拠点）、

(2) ツアーの変更

旧 西九州コース、南九州コースの2コース ⇒ 新 南九州コースの1コース

※詳細は九州支部
ホームページをご覧ください

IT推進委員会報告

IT推進委員会委員長 大里 信義（化学、総合技術監理・北九州）

去る平成16年12月20日、日本技術士会九州支部事務所においてIT推進委員会を開催したので報告する。（浦島委員の議事録から抜粋）
出席者（敬称略）；泉館昭雄（支部長）、池田義実（副支部長）、大里信義（委員長）、棚町修一（広報委員会）、松尾憲一（業務開発委員会）、畠中新二郎、木下茂廣、長野義次、久富浩明、坂田一則、梶原宏一郎、浦島和衛、森美保子（事務局）、以上13名
議事内容

1. 新規にIT推進委員になられた長野義次氏の紹介をした。

特にCPDの実績登録支援について活躍していただくことになった。

2. 新規に入会する会員の電子的に記入できる入会申請書のフォーマットについて検討した。

技術士会内部での公開を前提に記入して貰うこととし、名簿情報（住所、氏名、勤務先（事務所）、TEL/FAX、e-mail、技術士部門）については連絡網構築のため必須、それ以外のデータについては任意であるが、技術士同士のネットワーク形成のためには詳しい方がよい。個人情報保護法との絡みもあり、使用目的をフォーマットに明示して差支えない範囲で記入して貰うこととした。

3. 九州支部のホームページの整備と活用の仕方について討議した。

ヒエラルキー型連絡網メールへの添付ファイルは届かない場合があるので、代わりにホームページを利用する。ホームページへの掲載、更新、リンクは事務局で可能なようにする。（今すぐにはムリだが久富委員から事務局森さんへ技術移転をする）

4. CPDの支援の行い方について討議した。

CPD研鑽管理番号は①西暦年月日8桁（例えば平成17年1月25日は20050125）、②管理区分2桁（但し本部関係は10、支部関係は20と定義する、例えば北九州関係は21、第3部会だと13）、③通番1桁（同じ日に同じところで同じ分類の複数の講演があるときのことを考えて）の11桁とする。（管理区分は区分を表すのは地区を表すコード2桁（20番台）、部門を表すコード2桁（10番台）で区別できるので2桁ですむ）

CPD受講実績については個人が管理登録するのがあたりまえであり、支部で出来るのはCPDに出席した名簿を作ることくらいである。CPD出席者の名簿から個人の登録可能時間数（公的に認められる）が分かるようにするシステムについては推進委員会で検討する。

5. ヒエラルキー型連絡網の徹底について討議した。

今までにメールアドレスのエラーや二重送信（部会長からも地区代表幹事からも等）が発生、返信についても返信先が乱れているケースがあるので正しい連絡網の徹底が必要である（返信先は明示する）。

アドレスの変更を申請しない人が多いので、部会長・地区代表幹事はメール名簿を完全なものにするため月1回はメールを流し、開封通知が来ないもの、エラーになったものをチェックし、変わったものは支部事務局に通知する（IT推進委員はこれをサポートすること）。本部には月1回登録変更分を支部に通知することを要請する（転入、転出分の把握）

6. 其の外、個人情報保護法案について情報交換をした。

財団法人韓国建設安全技術院のホームページの紹介

日韓技術士会議で交流がありました金慶鎮先生が理事長をされています財団法人韓国建設安全技術院のホームページをご紹介します。

財団法人韓国建設安全技術院は、建設に関連されたあらゆる災害から国民の生命と財産の保護に先駆けるため1990年8月に設立準備をして1991年1月9日付けでその当時の建設部から国内最初に建設安全を目的とした非常利法人です。

財団法人韓国建設安全技術院のホームページは日本語、英語、中国語で紹介されています。

事業分野は、建築分野、文化財分野、環境診断分野及び土木分野に広がっています。

金慶鎮

homepage 住所：<http://www.kicst.com>

部会報告

第一部会技術研修会

講演 2 題

第一部会長 野見山 益生 (機械・福岡)

平成16年11月27日参加者20名 (博多第一ホテル)

1. 日本人の自然観と公園づくりの指針

技術士 (機械・総合技術監理) 沼尻 健次先生

本稿については平成11年度第17回技術士研究・業績発表年次大会で「21世紀のわが国の公園づくりの指針」として発表されたものに今回更に研究を加えて完成されたものの講演である。

①概要

21世紀の少子高齢化社会に求められるものは、従来西欧人が描いた公園のコンセプトではなく、「日本の生態系に合う安らぎの求められる場所」を基本コンセプトとして考えねばならないと主張し、そのための公園の目的は次のように設定する事を提案する。

- (1) 市民への心の安らぎの場を提供する。
- (2) 植栽や水の浄化のあるべき姿を提示する。
- (3) 環境の優しさを育む場を提供する。
- (4) 自然エネルギー利用のPRの場を提供する。

特にこの分野で西欧諸国の先進国である英国、ドイツの例をあげてわが国の実態は都市の居住区域の生態的緑化に関する「法的基盤整備」が遅れている。そこで本稿の主題である日本人にふさわしい公園について考察してみたい。

日本人の自然観から見て公園の有様が明治以降変ってきて、西欧の人工的公園をモデルにした行政施策の中から生まれた公園が主流になっていた。

そこで日本人の自然観と生態系維持との融和になる公園計画の必要性が要求され、原生林の保護育成、水域の保護を重視して次のような公園の計画がなされるべきである。

- (1) 生態学的核となる地域の決定と自然環境改善
- (2) 自然の回廊づくりと人間の利用地域の考え方
- (3) 公園における資源循環と自然エネルギー利用について公園地域の環境モニタリング、緑地のネットワーク・自然の回廊、農業溜池の公園整備化等々、具体的に図面にて説明がなされました。

今回は 財団法人北九州産業学術推進機構・北九州学術研究都市開発事務所にて計画された「グリーンコートひびきの環境共生団地」について採用したい技術-1、2の説明がなされ、主要技術の紹介-1として太陽光発電、コージェネレーションシステム同-2としてヒートポンプシステム・ディスプレイ等の具体的な事例の説明がありました。

最後にこのようなプロジェクトの趣旨に賛同して取り組んでくれる住宅事業者があれば募集していますとの事で、これから21世紀の時代に相応した「地域文化の結晶として自然観に合致したそして自然の生態系の保護につながる公園づくり」が進められることと思います。

2. 南大隈に築くわが国最長の風力送電線

技術士 (電気電子) 鹿島 脩一先生

鹿児島県肝属郡南大隈地区 (根占町、佐多町) に西日本最大の風力発電所が建設され、その規模は平成16年3月末日、系統連系 (変電所・送電線、運転中) 発電機20基 (26,000kW) 33kV送電線359基、19.4kmはわが国最長であり、西日本技術開発㈱で調査・設計、風車等チェック等も4年猶予の期間を経て完成されたものである。

最新の技術、経費節減、諸対策の現地見直しによる当社初のオーナーズコンサルによるプロジェクトでありました。

- (1) 33kV 400mm² 1回線送電システムの採用
26,000kWの発電電力を20kmの送電方法として3方式で検討し、従来は22kV、2回線しかないとの結論であったが、建設費、ロス評価額、優位性等の点から上記のシステムの採用となり、かなりの節減になりました。
- (2) 33kV 高抵抗中性点接地方式33/22kV碍子、ポリマー碍子の活用
根占~佐多PS、約3.5km、絶縁性能、耐汚損性能優秀、軽量のポリマー碍子を使用
この碍子は高分子材料の有機碍子で出来ており外被ゴムはシリコンゴムで撥水性に富み、紫外線に強いし、機械的に強く小型軽量に出来る特徴がある。
- (3) 33kV低風圧架橋ポリエチレン絶縁アルミ電線 400mm²初の活用

が今回の風力送電線の新技术である。今度の講演会の会場に我々が日頃見られない高圧磁気碍子（かなりの重量物）、更にポリマー碍子を鹿島先生が持参して頂き、現物を見ることができて勉強になりました。その他 低風圧電線の特徴、強烈な冬季の雷、塩害対策、電磁誘導障害、風圧荷重最大地域における「横拘束コンクリート柱」については横筋を高張力鋼リング筋にする等開発が進められてきている。

今後とも風力発電等 自然エネルギーの開発は地球環境上一層進められる課題ではあり、ビジネスの

難しさは地域との問題、法規上の問題等々抱えています。これを克服して開発されていくと思います。本題の講演には20数件の質問があり、非常に活発な討議に講演者も満足している次第です。

今回の講演2題共に今後日本における生活環境浄化のために、地域とクリーンエネルギーの重要性を説明戴いた研修会でありました。研修会終了後近くの居酒屋で簡単な懇親会を行い意見の交歓をして有意義に終了しました。

(代記 幹事 田中)

第三部会技術研修会報告

第三部会活動報告

第三部会 和田 洋二（金属・北九州）

第三部会では、H16年度第三回技術講演会をH16年11月27日、博多第一ホテルにおいて開催し、化学部門を専門とする会員お二方の講演をお聞きした。

講演は、われわれ地球人にとって身近で関心度の高い、「生活環境」に関連する話題だった。

なお、今回から第三部会では北九州地区技術士会活動を見習い、「技術講演発表シート」を事前に講演者に作成していただき、講演当日出席者に配布するようにした。

それぞれの講演内容について、以下に概要を報告します。

(1) 「最近の染料の技術動向」：化学部門

姫野 清氏

【要旨】 染料の開発の歴史は常に、新繊維の開発に対応してきている。最近では、ポリエステル繊維（PETと略す。）に新しい機能を付与するために、マイクロファイバー等に代表される数多くの新繊維が開発されている。繊維の線径、形状、他繊維とのハイブリッド化などに、工夫され新しい繊維が生み出されている。

それに従い、これらの変化に対応するために、染料も堅牢度面では、洗濯、日光及び、昇華等が既存の染料に無い性能が要求されている。また、色の深み、特に、ルビン色、紺色及び黒色に要求されている。

【内容その他】 講演者は、大手化学メーカーで長年染料に関する研究開発を行った実績を持ち、また、英国の研究所での研究経験もあるこの道の専門家であり、研究開発の苦勞が肌で感じられる講演だった。

「国別ポリエステル繊維と分散染料消費量」の統計に関して、染料の使用量は色（何色に染めるか）と繊維の細さをパラメータとして決まり、単純に使用量だけの比較はあまり意味がないことなどの説明があった。

(2) 「天然ガスチェーン（天然ガスと有効利用）」：
化学部門 水谷 和秋氏

【要旨】 天然ガスはクリーンエネルギーとして認知され、石油代替燃料として着実に消費量を伸ばしてきている。

天然ガスビジネスはチェーンビジネスとしてとらえられている。本講演では、チェーンとそれを構成する各セグメントの概要を上流から下流へ設備面を中心に説明する。

天然ガスチェーンの末梢において燃料電池燃料の水素原料としても注目を集めていて、周辺の話題についても説明する。

また、メタンハイドレートの発見と回収方法の検討が進むにつけ、日本も資源国になりうる可能性が出てきた。

一方、燃料電池の普及もあと数年で爆発的にのびることが予想されるようになり、天然ガスの重要性がますます認識される昨今である。

【内容その他】 大手エンジニアリング会社で長年化学・食品関連プラント等の建設を手がけてきた経験をお持ちの講演者は、現在は、九州域内を基盤とするプラント建設会社に勤務しておられ、リアリティのあるお話をお聞きできた。

消費国である日本にとって、天然ガスの市場価格を決める最大の要因は、産出国との契約形態、もっと言えば、LNG船を使った輸送コストである。天然ガス埋蔵量は100年以上とも言われ、わが国の一次エネルギー供給量約13%を占めるとのこと。

第七部会技術研修会報告

公開講演会報告

「産学官と技術士の連携で創造する社会」

第七部会長 田辺 努(機械、総合技術監理・福岡)

昨年12月11日に、福岡青年技術士ネットワーク(以下、fsg)主催で、福岡県教育会館にて、公開講演会を開催いたしました。昨年より支部青年技術士部会(第7部会)が立ち上がったので、今後、青年技術士ネットワークと第7部会は、協力して青年技術士活動を行っていくことになりました。そこで今回より、第7部会協賛となり、また小出理事や泉館支部長、是永副支部長他支部役員の方々にもご支援、ご参加いただき、大変盛会となりました。

fsgでは今年度「産学官連携」を年間テーマとして活動しており、今回の講演会も同テーマで行いました。

第一部は、九州大学工学研究院の松田助教授より、「技術士の方々の活躍が新たな産学官連携の扉を開く」という演題で講演していただきました。以下講演内容ですが、「産学連携道場」と銘打ち産学連携の推進に取り組んでおり、そのホームページもあるので是非みてほしい。元々経済産業省の出身であり、そのときから産学連携に取り組んだがなかなかうまくいかなかった。いまは大学の中で企業や行政等との接触(3千枚以上名刺交換した)や大学の中の教官と事務方のマッチングの役割をしている。ただ、産学連携は甘いものではなく、実際にビジネスとして成り立ったのは10件足らず。大学内の研究室をみて感じることは、良い研究をやっているところは教授と学生が力を与えあっており、産学連携にも熱心である。逆にそうでないところもある。問題点として、日本は企業の設立が少なくベンチャー精神が欠如している。大学と企業でインターンシップ制度があるが、実践型から課題対応型インターンシップのレベルアップが必要。技術士への期待として、政策は追い風であり、企業間、大学間、省庁間等の隙間を埋める役割があるのではないか。意欲ある中小企業が狙い目である。また、技術士集団の存在のアピールをもっとした方がよい。

第二部は、パネルディスカッション形式で、「産学官との連携について」現状の問題点と取り組み事例、今後の可能性について議論しました。パネラーは、九州大学松田助教授、高田助教授、経済産業省竹内氏、九州電力平山氏、泉館支部長という産学官に技

術士を加えたメンバーで行いました。以下内容ですが、現状の問題点として、そもそも日本においては大学が何をやるかはっきりしていない、目標・手段・コスト、知財の管理が不明確でマネジメントしにくい、産学官連携に過度な期待あるいは逆にあきらめがある等がある。補助金のコストを意識してほしい。現在の取り組みや今後の可能性として、具体的製品開発事例の紹介や、大学の近くにベンチャーを設立しやすい環境をつくり、地域活性化にもつなげる(飯塚トライバレー構想等)、金融機関は中小企業のニーズについて情報を持っており、その情報を産学官と情報交換するとよい、技術者倫理をふまえた産学官連携が必要である。

以上のような内容で、今後の課題を明確化でき、有意義な講演会になったと思います。

また、同日、青年技術士ネットワークと第7部会の望年会(青年では、来年を望むという意味で「忘」ではなく「望」としております)を中洲で行い、そちらも大変盛り上がりました。初めて参加された方もおられ、一段と技術士間及び産学官とのネットワークも広がりました。

平成16年度技術士試験結果

●第一次試験結果(平成17年1月14日発表)

	全 国	福 岡
受験申込者数 (A)	55,351名	6,384名
受験者数 (B)	43,968名	5,106名
合格者数 (C)	22,978名	2,346名
対申込者数合格率 C/A	52.3%	45.9%
対受験者数合格率 C/B	41.5%	36.7%

●第二次試験結果(平成17年2月18日発表)

	全 国	福 岡
受験申込者数 (A)	19,062名	1,735名
受験者数 (B)	11,705名 (B/A) 61.4%	1,111名 64%
筆記合格者数 (C)	2,208名 (C/B) 18.9%	152名 13.68%
口頭合格者数 (D)	2,030名 (D/C) 91.9%	146名 96%
全合格率 (D/B)	17.3%	13.1%

●第二次試験結果(総合技術監理部門)

	全 国	福 岡
受験申込者数 (A)	6,535名	549名
受験者数 (B)	4,436名 (B/A) 67.9%	391名 71.2%
筆記合格者数 (C)	1,560名 35.2%	104名 26.5%
口頭合格者数 (D)	1,407名 90.2%	90名 86.5%
全合格率 (D/B)	31.7%	23%

地域だより

福岡

福岡青年技術士ネットワークの活動報告

運営委員長 久富 浩明 (情報工学)

福岡青年技術士ネットワーク (以下 fsg) は年間テーマを設けて例会を開催しており、16年度のテーマは「産学官と技術士の連携で創造する社会」として、次の定例会を開催しました。

- 第68回 H16. 4 「産学官士連携の実態」
- 第69回 H16. 6 「産学連携と知的財産
～背景の理解と正しい活用方策～」
- 第70回 H16. 8 「産学官連携について
福岡市の取組」
- 第71回 H16.10 「九州電力総合研究所における
研究開発の現状について」
- 第72回 H16.12 「産学官と技術士の連携で
創造する社会」(公開講演会)
- 第73回 H17. 2 「産学官と技術士の連携で
創造する社会～まとめ～」

産学官のそれぞれの立場における話を伺うことができ、会員はこれからの業務に生かせるきっかけを知ることができたと思います。

昨年は日本技術士会・九州支部において、青年技術士部会(第七部会)が立ち上がり、公開講演会は合同で開催いたしました。これからは青年技術士部会と連携して若手技術者の交流をいっそう盛り上げていこうと考えております。

福岡青年技術士ネットワークへの参加は自由です。例会の後にはノミネーションによる例会時間で収まらなかった話題や技術・趣味の話により、楽しい時間をすごしています。これからの自己研鑽と人脈作りのひとつとして福岡青年技術士ネットワークへ是非参加してください。

例会の内容や連絡先は技術士会九州支部のHPより「継続教育(CPD)」「地区開催研修会」を参照してください。それでは、みなさまの参加をこころよりおまちしております。

熊本

熊本地区の活動

地区広報委員 吉田 紘彬 (応用理学)

「世界の阿蘇を見たくてJR阿蘇駅に降り立ったが、そこには何もなく、タクシーで中岳の噴火口、内牧温泉、黒川温泉へ行った。」「天草に行きたくてJR三角線に乗り駅前のフェリーターミナルから、遠くに天草を眺めてきた。」など、だだっ広い観光地熊本は運転免許証のない旅行者に失望を与える場合が多いようです。新幹線は新八代～鹿児島中央間を既に40分足らずで結び、高速バス1時間で行ける博多も新幹線では30分足らずとなります。熊本の女性達は週末になると博多へ行ったり、新幹線で鹿児島へ、車では湯布院・島原・有田陶器市・プロ野球のキャンプシーズンには宮崎まで出かけている人もい

るようです。九州の中心に位置する熊本は空が広く・地下水からなる水道水はおいしく・質の高い農畜水産物が豊富です。将来は九州の田園調布(古いかな?)のような高級住宅地になるのではないかと考えながら、熊本県の技術士会から便りを送ります。NPO法人「熊本技術士の会」は1年を通して技術士受験者の支援を中心に、球磨地区の土木史編纂に携わり、「みらい有明・不知火」は干潟フェスター(5月頃)・シンポジウム(11月・3月頃)が計画されています。プロジェクトチーム熊本技術センターでは裁判の鑑定依頼などがあり、今後の対応を検討しなくてはなりません。任意団体の熊本県技術士会は熊本県内技術士・技術士補の交流を計りながら、技術士受験者の窓口になり、本部会員の増加に努めている状況です。

北九州

北九州地区総会兼忘年懇親会の報告

地区幹事 寺師 政廣(上下水道)

北九州地区技術士会では、年末の技術研修会の折に総会及び忘年会を開催しています。平成15年度から、この総会兼忘年会を各地区技術士会との懇親会とする運びとなり、昨年度は熊本、今年度は佐賀に行って参りました。

12月18・19日の2日間の佐賀嬉野旅行は、北九州20名、福岡9名、佐賀2名の合計31名の参加で、昨年度と同様、盛会で有意義なものとなりました。

18日午前10時に小倉駅を出発、博多駅で福岡地区と合流、佐賀県立宇宙科学館「ゆめぎんが」にお昼に到着した。「ゆめぎんが」を見学後、研修会を開催、嬉野町観光商工課長一ノ瀬真氏による特別講演「嬉野温泉の現状と今後の構想」を拝聴、長崎街道とのかかわり、嬉野温泉の歴史について学習しました。戦後、歓楽街として発展してきたが、今後は長期滞在型の健康保養地として意識改革している様子が伺

えました。

続く沼尻健次先生(機械・総合)の技術講演「プラントエンジニアリングにおける技術士との関わりについて」では技術士に対する認識を新たにしました。総会では、是永副支部長に平成16年の総まとめをしていただき、懇親会場である嬉野温泉「グランド鳳陽」へと出発しました。

忘年懇親会では、恒例の月例会の皆勤賞表彰、佐賀から参加していただいた藤永代表幹事、原田先生を特別表彰、カラオケ大会、そして、福岡地区境先生の沖縄三線に魅了、佐賀地区の珍芸まで披露され、宴会は最高潮に達しました。また、続く二次会は部屋に戻っての宴会となりましたが、過半数が参加し、焼酎6本を一挙に飲み干しました。しかし、皆様の酒の強さには驚きました。

翌朝、祐徳稲荷神社、甦った湧水を見学後、帰路につきました。佐賀地区の皆様、色々なご配慮有難うございました。本来の目的を果たすことができました。来年度は大分に決まりそうです。大分地区技術士会の皆様、宜しくお願い致します。

長崎

県技術士会のステップアップへ向けて

地区代表幹事 大橋 義美(建設、総合技術監理)

長崎県技術士会の会員は現在104名であるが、入会していない技術士及び修習技術者も多いため勧誘促進を図る必要があります。今後、会員の増強、活動の充実・活性化等を推進していくためには、現在のように勤務先で日常の業務を行っている少人数の役員のみで、会の運営を引き続き実施して行くことは非常に難しい状態となってきました。

このため、会の役員、委員会等活動部門の編成、修習技術者の支援活動等について、本年度末までに新しい会則(案)を作成し、17年度通常総会で審議・承認を得て、新しくステップアップした会の運営が出来るように準備を進めています。

研修会については、平成17年1月28日に40名の参加で実施しました。尚、今回は、3名の会員外の講師にお願いしました。

研修内容は、「中国における長大橋の建設と技術

交流」長崎大学工学部助教授呉慶雄氏、「ナノテクの世界」三菱重工業(株)長崎研究所主任瀬戸口稔彦氏、「経済雑感」(株)親和銀行専務取締役片山仁志氏です。

研修会には、(社)長崎県測量設計業協会にも呼びかけ会員の参加もあり有意義なものとなりました。

今後とも、地域に貢献できる、開かれた技術士会として県内の技術関連機関と連携した研修会等の開催を考えています。又、佐賀県で行われている研修会や長崎大学等で開催されている研究発表会等にも積極的に参加するよう情報の提供を行っており、多くの会員が出席しています。又、会員による発表もあります。

平成17年度の研修会については、先ず、準備を進めている6月3日佐賀市で開催の「第41回西日本技術士業績・研究発表年次大会」の成功であり、10月の「日本技術士会全国大会」への参加です。このために、機関紙や会議等を通じて多くの会員の参加を呼び掛けています。

又、17年度は、一般研修会と併せ県内外の施設研修の実施も企画して行きます。

I

総合技術監理部門 受験体験報告

中村 勲 (建設・福岡)

総合技術監理部門の受験を通じて感じましたことをご報告いたします。

既に技術士会九州支部、九州技術士センターの会員諸氏には多数の総合技術監理部門の資格取得者がおられますが、今後の受験を考えておられる方々の参考の為にも、あえて体験報告をさせていただきます。

今回の受験については、技術士法の改正により、H16年度から第二次試験(学科)の受験資格者は、第一次試験の合格者である事が必須条件になりました。そこで最終ゴールまで足かけ3年の長い挑戦になってしまいました。

まずH15年10月に九産大で、第一次試験科目の中で「適正科目」(全15問)のみを受験しました。

次はH16年8月に九産大で第二次試験(学科)への挑戦でした。

第二次試験の第1課題は総合技術監理一般として、五肢択一問題が40問出題されました。出題範囲は概ね(社)日本技術士会発行の「技術士制度における総合技術監理部門の技術体系」(青本、1版・2版)からのようでした。従ってこの技術体系を念入りに2回以上読んでおく事をお勧めします。択一式問題は、試験後に(社)日本技術士会よりホームページ上で解答が公表されています。

第2課題は経験論文です。今年のテーマは「安全管理」と「情報管理」が指定され、「経済性管理」、「社会環境管理」、「人的資源管理」より一項目を選択しての記述が求められました。内容は600字×2枚=1,200字です。

私はこの課題に対して、建設省・九州地方建設局管内の道路調査事務所勤務時代に従事した、新交通軸調査の「関門海峡道路(第二関門橋)F・S調査」

より、主としてコスト縮減の視点から記述しました。

第3課題は「施設事故や製品欠陥等に起因した大きな社会問題が発生している。このような状況を防止するために必要な対策プログラムを検討し、答案用紙3枚(600字×3枚=1,800字)で述べよ」という問題のみでした。リスク管理分野からの出題でしょうが、もう目前が真白になりました。過去三年の事例において、第3課題は3つの問題項目が提示され、その中より1つを選び解答すれば良く、建設部門にも配慮された出題がなされていました。

今回の出題に対しては、ハインリッヒの法則、組織マネジメント、企業コンプライアンス、情報開示等のキーワードを挿入し懸命に文章化しました。

次はH16年12月に東京・渋谷で口頭面接が実施されました。面接時間は30分間でした。面接官は二人で、チーフ格の一人が主に質問され、私が回答すると即座にもう一人の方が関連質問をされる状況でした。この時の質問事項は①総合技術監理部門の受験動機③従事した仕事の中で「経済性管理」の中から2件の事例説明③同じく「社会環境管理」の中から1件の事例説明④長大吊橋のケーブル安全率の考え方⑤会社の事業方針が技術者倫理に反した場合の対処法⑥従事した職場のマネジメント事例⑦最近のCPD制度により自身が受講した内容説明でした。なんとか面接官との会話は成立したようですが、面接終了後はもう喉がカラカラでした。

試験の最終発表がH17年2月にあり、幸い合格することができました。今回の受験を通じて感じた事があります。まず経験論文は複数の方々に読んで頂き、意見を頂く事です。私も二人の方々に読んで頂き、厳しく貴重な意見を頂いて、記述内容を大幅に変更しました。

口頭面接試験については、種々の試問事例が参考書等により公表されていますので、例えばこの事例に沿った形で自分自身の言葉で回答を作成しメモしておく。このメモを読み返し、頭の中にタキ込むのも効果のある一方法のようです。

II

高レベル放射性廃棄物処分場 誘致構想の顛末

三田 和朗 (応用理学、総合技術監理・鹿児島)

鹿児島県薩摩半島の南西端に位置する笠沙町で、1月4日に高レベル放射性廃棄物最終処分場(核燃処分場)の候補地として、町有地である宇治群島(薩摩半島南西端の野間岬から約65km西南西にある無人島)を申請する旨を町長が町役場職員に説明し、4日間の混乱が始まった。

地元新聞には「なぜ笠沙」・「唐突」・「海域への影響が心配」・「合併絡み理解できぬ」などのタイトルと、新聞社の主張と思われる「100%安全とは言い切れない」・「地震が多い日本では処分の安全性が心配されていた」といった記事が載った。

その結果、1月7日には、漁協組合員が「核で自分たちは命を奪われたくない」と「核燃処分施設誘致反対」の赤旗を立て役場前に結集した。当日開かれた議会では、全会一致で調査申請に反対が決議され、町長は、説明からわずか4日後に誘致を白紙撤回した。

この過程で注目すべき点は、議会を代表した議長の反対理由が「家族や近所の人意見を聞けば賛成する理由はない。」という奇妙な回答であった点である。家族や近所人は、核燃処分の高度に専門的な内容を深く理解していないことが一般的である。町長は議会から説明の場さえ拒否されている。すなわち、本来、議会で議論・検討されるはずの科学的な内容(安全性・環境への影響・経済効果・観光に与える影響)などの内容がすべて抜け落ちている。

実は、この感覚は、地元新聞社の1面や3面記事に大々的に取り上げた内容と一致している。新聞には、この4日間に科学的見解は一切掲載されなかつ

た。ほとんどが、専門ではない方々の感情の羅列で終始していた。まさに、核アレルギーの感情が科学的理解さえ困難にした状態であった。このような新聞報道の風潮で、本来あるべき議論がなされない事を危惧する。笠沙町長は、事前に新聞報道がなければ議会にも説明出来ただろうとコメントを残している。

現在の、新聞報道のあり方に疑問を持つのは私だけだろうか。新聞の持つ社会的影響力を考えれば、新聞の報道内容が社会的に危惧される時、技術士会は少なくともその専門分野で、新聞報道に意見を表明する必要があるのではないのでしょうか。その様な機関があれば、新聞社自体も批判に耳を傾けながら、よりよい社会構築に向けて現在より広い視点から記事を記載する方向になるのではないかと思う次第であります。

(高レベル放射性廃棄物最終処分の概要説明)

高レベル放射性廃棄物は、ウランの使用済み燃料を再処理した結果残る放射線が高い廃液である。この廃液をガラスに溶かし込んで直径44cm長さ135cmのガラス固化体とし、厚さ約20cmの鋼製容器に入れて、深度300m以深の安定した岩盤内に埋め込む。鋼製容器と岩盤の間には、鋼製容器が耐用年数を過ぎた後の放射性物質の拡散を阻止する目的で、厚さ70cmの粘土を充填する。放射線強度は、1万年後には約1万分の1まで低下する。同廃棄物の処分法として国際的に同意され、日本でも原子力委員会などでその安全性が確認されている手法である。

我々が使用する技術のほとんどが、地球温暖化・環境汚染・資源の浪費の上に成り立ち、その付けを将来世代に負荷として残していく技術である点を考慮すると、数万年にわたって将来の人類の負荷とならないよう考慮した高い理念を感じる技術である。

なお、この説明に疑問を持たれる方もいらっしゃるでしょう。その疑問に対する科学的議論こそが現時点で議会や関係者に必要な事項では無いでしょうかと思う次第であります。

平成17年度技術士試験日程・会場(福岡)のお知らせ

技術士第二次試験		技術士第一次試験	
平成17年	7月1日 官報告示(会場)	平成17年	
2月16日 官報告示	8月6日 総合筆記試験★	2月16日 官報告示	9月5日 官報告示(会場)
3月1日 申込書配布	8月7日 総合以外筆記試験★	5月18日 申込書配布	10月10日 筆記試験
4月1日 申込受付開始	11月10日 筆記試験合格者発表	6月13日 申込受付開始	12月26日 合格者発表
4月20日 申込受付締切	12月2日~19日 口頭試験	7月1日 申込受付締切	
平成18年	2月10日 合格者発表		

★九州大学(六本松/教養・箱崎/法文)に変わる。

修習技術者の声

生涯成長し続ける 技術者を目指して

川西 大樹（建設・熊本）

熊本がとても好きな私は、地元の発展のため少しでも貢献できるようにと、地元の建設コンサルタントの道を選びました。そしてあっという間に2年の月日が経とうとしています。またJABEEが認定されたため、修習技術者であることを意識して日々の仕事を行っています。

今回は毎日が単調に進みがちな生活を見直すのにいい機会をもらったと思います。これを機に、いまやるべき事と今後やっておくべき事について考えてみました。

私が目指しているのは、技術面はもちろんのこと、それだけではなく一個人として人格や人柄も信頼されるような技術者になることです。この業界に入ってから一番感じたことは、新しいことや人と違ったことなどは嫌われるということです。これまでの実績や業績で安全な工法だと判断することはよいのです

が、それ以上の対応策として新工法を提案したとしても、それに対する対応は冷ややかなものです。実績や業績云々でなかなか関心を持ってもらえないことがあるように思われます。私はこれを豊富な専門知識を持ち、且つ、周りから尊敬されるような技術者は変えることができていると思っています。

そのためにも次のことを常に頭におきながら修習技術者として励んでこうと思います。個々の技術能力向上と伴に社会貢献や現在の社会ニーズに的確に対応する能力を身に付け、そして今当たり前のようになっている他人の意見を素直に聞くということが続けていくことです。

技術士法の改正により、JABEE認定による一次試験免除というのは、技術士になるための道を広いものにしたいと思います。これは私たちに該当することではありますが、この改正によって技術士の質が劣ってきたと言われないようにすることが私たちの最低の試練だと思っています。また技術士になることが当面の目標ですが、それをゴールにするのではなく、人と人のつながりを大切に、生涯成長し続ける技術者を目標に今後努力をしていきたいと思えます。

知識の窓

「新ガリバー旅行記」

竹内 良治（水道、衛生、建設・北九州）

ガリバー旅行記は、アイルランド人スイフトが宗主国大英帝国に対し、あなた方は馬以下であると皮肉った話です。その英国に、禁煙半年のご褒美として10日間ツアーに行く機会を得た。英国は、グルメも名所もいまひとつだが、英国病を克服し、希望のもてる国として、興味津々だった。

11月3日、平均年齢70歳、10名で成田発、夕刻、ヒースロー空港に到着、スコットランドの首都エジンバラに向かう。暗闇の下界を見ると、町がオレンジ色に輝いている。街灯が照明効率の高いナトリウム灯に変えている。さすが、けちのイングリを納得。

翌日はエジンバラ観光である。まだ英国王室が使用中のエジンバラ城や昨年空とぶ宮殿で映画になったホーリールード宮殿の古さに圧倒される。城に続く旧市街は、なんと500年間、現役市街である。谷を挟んだ西側の新市街はこれも150年前である。この

古さは英国中に満ち溢れていた。新市街の屋敷は数億円するらしいが、価値は減らない。途中の街の自由散策で、不動産を覗いたが、戸建てで築150、200年が普通で、値段も十数万円前後であった。

日本は一世代で家を建てるのが普通であるのが、この国では古家は維持するのが常識なのである。しかも、個人の家でも、屋根と外壁は統一されており、個人の好みは赦されない。郊外の景色は高校の教科書で習ったとおりの、囲い込み運動の垣根がそっくり残っている。しかも、羊が喰っている草はベント芝で雑草がない。

庶民の生活、消費税17.5%は聞いていた。驚いたのはガソリンの価格190円/L、さらに軽油が200円/Lであった。この国は北海油田で原油輸出国なのである。また、トレーラの駆動輪は単輪三軸で、空荷のときは中の軸を宙吊りにして走る。乗用車も1.5lクラスでジャガーなんてほとんど見ない。これで国際競争できている。

高速道路は、もちろんただだから、料金所もETCも不要である。一般道路との連絡もロータリーを多用し、信号機も節約していた。公団もファミリー企

業もなく、これでは維持費も日本の数分の一であろうし、真の技術とは何かと考えさせられた。

政策についてもスマートなことがある。タバコの価格である。200円から段階的に1000円まで上げた。喫煙率は50%から30%に落ちた。税収は8倍、年少者の喫煙激減、タバコ産業からの脱却支援と三方両得

の結果となった。

年降水量600mm、地震、火山の自然災害が皆無とはいえ、古いものを大切に、高負担を粛々と甘受する英国民の態度は、江戸時代の武士、戦前の日本人が皆、持っていた意識ではなかったらうか。

技術情報

女神大橋と第二西海橋

長崎県技術士会長 犬束 洋志 (建設・長崎)

Prologue

最近若い技術者諸君が現場勤務を避ける傾向にあることをよく聞かすが、行政に長く携わってきて今や人生の終焉に向かって一人の技術者として最後だけでも現場に立ちたいとの希望がかなっている私にとっては残念だとしか言いようがありません。

確かに研究機関や設計室での業務も大切なことは理解できても現実にものが作り上げられてゆくのは現場なのです。

そんなことを考えながら今回は、灼熱から寒風に

さらされている二つの橋梁架設現場をご紹介します。現場で働く技術者諸君の励みにしたいと思います。

長崎県における現状

離島が多い長崎県においては、昭和52年完成の平戸大橋以来、後進性の脱却を目的に離島に橋をかけて本土化することを目指してきています。最近では高速交通体系の充実から建設される大規模橋梁が目立っています。但し、昨今の経済財政事情を反映してか予算確保が厳しく、現場も緊縮を強いられているのが現状です。

それは別にして、今回は長崎県の北と南でまさに建設が佳境にある女神大橋と第二西海橋をご紹介します。

橋梁の比較

二つの橋を項目別に比較して次表に示した。

比較項目	女神大橋	第二西海橋
架橋位置	長崎港の入り口	大村湾の北、二つある海峡の一つ
架橋目的	長崎市南部と西部の連結、市中心部の交通混雑緩和、将来は外環状を經由して九州横断道路に結びネットワークを形成	長崎・佐世保を一時間で結ぶ自動車専用道路の一環、周辺は観光地化されているので現橋の幅員では狭く交通安全上危険
完成予定	H18年3月	H18年3月
橋梁形式	3径間連続鋼斜張橋	鋼中路ブレースドリブアーチ橋
橋長	880m	300m
支間等	支間；480m 航路高；65m 支間割；200+480+200	アーチ支間；230m アーチライズ；48m 支間割；30+240+30
床版形式	鋼床版	合成床版
架設工法	塔は大ブロック架設、桁は直下吊工法	ケーブルクレーン斜吊架設
総鋼重	24,000Ton	3,370Ton
特長	桁高さ65mは明石大橋と同じ、桁にフェアリングを設置	道路橋として国内初のCFTアーチ橋 CFT：Concrete Filled Tube
架設の特長	桁架設がフルバランス工法	本橋で使用しているケーブルクレーンは、支間355m、鉄塔高さ77.5mで本工法を採用しての工事としては国内最大規模となります。使用ケーブルの総延長は40kmに達します。
その他	下部工を国直轄、上部工を県が施工	
施工者TEL	095-832-5387	0956-20-2360

Epilogue

橋の雄大さは完成後よりも架設中に見られるときえ言える。特に第二西海橋のケーブルクレーンは今

しか見られない。技術者を自認するなら一度現場を見てほしいと願いながら紹介を終えたい。

会員ニュース

☆(社)日本技術士会(九州支部)入会

(地区)	(区分)	(氏名)	(部門)	(上段:連絡先/下段:勤務先) (連絡先と勤務先が同じ場合、連絡先のみ)	
福岡	正会員	中尾 好幸	建設	〒838-0103 小郡市三国が丘7-8	☎(0942)75-1684
			総合技術	㈱長大	
佐賀	正会員	三浦 哲彦	建設	〒840-0022 佐賀市中の館町12-4	☎(0952)26-8316
			総合技術	㈱軟弱地盤研究所	☎(0952)41-8840
北九州	正会員	城戸 和彦	建設	〒822-0003 直方市上頓野605-3	☎(0949)26-1096
				山九㈱プラント事業部	☎(093)645-7254
佐賀	正会員	松坂 寿信	建設	〒841-0048 鳥栖市藤木町2106-8	☎(0942)83-0951
				㈱共和テック技術部	☎(0942)72-3757
大分	正会員	佐藤 哲也	建設	〒870-0952 大分市下郡北3-21-30-101	☎(097)567-5985
				西日本コンサルタント㈱	☎(097)543-1819
福岡	正会員	松尾 良一	建設	〒835-0021 福岡県山門郡瀬高町本郷629	☎(0944)63-2431
				西松建設㈱九州支店	☎(092)771-3124
福岡	正会員	松本 謙二	応用理学	〒811-1252 福岡県筑紫郡那珂川町五郎丸1-129-211	
				松本地質事務所	☎(092)952-2972
北九州	正会員	佐野 義一	金属	〒808-0047 北九州市若松区中畑町23-37	☎(093)771-6206
				日立金属㈱ロールカンパニー	☎(093)761-4718
福岡	正会員	平井 一三	建設	〒818-0062 筑紫野市大字針摺362	☎(092)925-6806
			総合技術	㈱徳光興産	☎(092)928-7791
福岡	正会員	古川 博恭	応用理学	〒814-0165 福岡市早良区次郎丸4-12-33	☎(092)863-2409
				ライト工業㈱九州支店	
福岡	正会員	藤川 孝作	環境	〒813-0002 福岡市東区下原3-23-18-4	☎(092)682-4633
				㈱九州環境管理協会	☎(092)662-0410
宮崎	正会員	大木 洋平	建設	〒885-0012 都城市上川東1-16-4 エスポワール都城402	☎(0986)22-3195
				西松建設㈱九州支店 木之川内ダム出張所	☎(0986)64-3603
北九州	準会員	西野 和彦	水道	〒820-0205 福岡県嘉穂郡稲築町岩崎1137-10	☎(0948)42-6100
				隔測計装㈱技術課	☎(0952)551-1217
長崎	準会員	井手 智明	建設	〒855-0864 島原市秩父が浦町2669-8-202	
				長崎県島原振興局	☎(0957)64-1333
北九州	準会員	尾上 雅人	上下水道	〒805-0050 北九州市八幡東区春の町5-6-1-103	☎(093)662-0032
				冷牟田設計コンサルタント㈱	☎(093)641-5566

☆九州技術士センター入会

北九州	正会員	江口 友弘	建設	〒811-3425 宗像市日の里3-18-13	☎(0940)36-2290
				福岡県北九州土木事務所	☎(093)691-2761 FAX(093)692-9479
福岡	正会員	仲野 幸男	建設	〒812-0013 福岡市博多区沖浜12-1	博多港センタービル8F
				五洋建設㈱九州支店福岡営業所	☎(092)282-0242 FAX(092)282-0253

☆会員連絡先(住所)および勤務先変更

(地区)	(区分)	(氏名)	(部門)	(変更)	
福岡	正会員	田辺 努	機械総合	連: 〒810-0032 福岡市中央区禰国2-25-47	☎(092)771-9018
大分	正会員	原 千砂子	建設環境	勤: 〒870-0865 大分市大字畑中433	
				東洋技術㈱	☎(097)554-5350 FAX(097)554-5328
鹿児島	正会員	前原 敏浩	農業	連: 〒890-0005 鹿児島市下伊敷3-88-23	☎・FAX(099)220-8160
鹿児島	正会員	森 繁徳	上下水道	勤: 〒892-0838 鹿児島市新屋敷16-21	県住宅供給公社ビル205
				水興設計㈱	☎(099)225-0281 FAX(099)222-6100
長崎	正会員	犬束 洋志	建設	連: 〒856-0023 大村市上諏訪町846-1	☎(0957)54-0030

北九州	正会員	安部 治郎	建設	連：〒811-3217	福津市福岡町中央3-4-17-1103	☎(0940)43-5185
福岡	正会員	矢嶋 英明	化学	連：〒810-0032	福岡市中央区輝国2-16-30-403	
福岡	正会員	川端 義弘	森林	連：〒811-3217	福津市福岡町中央5-27-22	☎・FAX(0940)42-8488
				勤：〒810-0024	福岡市中央区桜坂3-8-36ヴェルデ桜坂404	☎・FAX(092)724-6838
					川端治山技術研究所	
大分	正会員	清水 透	建設	勤：〒870-0100	大分市大字三芳1239-1	
					協同エンジニアリング(株)	☎(097)545-2111 FAX(097)545-1884
福岡	正会員	平井 一三	建設総合	勤：〒818-0062	筑紫野市針摺304-1プレバール筑紫野1F	
					(有)徳光興産	☎(092)928-7791 FAX(092)925-6806
福岡	正会員	梁木 英寿	建設	勤：〒819-0005	福岡市西区内浜1-4-18	
					水道サービス公社西部保全事務所	☎(092)882-5127 FAX(092)882-5262
福岡	正会員	椎原 啓二	衛生工学	連：〒818-0105	太宰府市都府楼南2-9-18	
福岡	準会員	伊藤 実	応用理学	連：〒816-0086	福岡市博多区南八幡町2-9-19-210号	☎(092)593-3591
福岡	準会員	大和田憲一	建設	連：〒811-0100	粕屋郡新宮町美咲1-4-10-401号	
大分	正会員	井口 公一	建設	連：〒279-0002	浦安市北栄1-7-27日邦マリンコート307号	
熊本	正会員	平林 榮裕	農業	勤：〒862-0929	熊本市西原2-34-12	
					太陽コンサルタンツ(株)	☎(096)387-3811 FAX(096)387-6238
鹿児島	正会員	坪井 克剛	電気電子	連：〒899-5102	鹿児島県始良郡隼人町真孝169-3-8	☎(0995)42-6263
				勤：〒899-5193	鹿児島県始良郡隼人町真孝1460-1	
					鹿児島工業高等専門学校電子制御工学科	☎(0995)42-9086 FAX(0995)42-9086
福岡	正会員	毛利 勝則	電気電子	勤：〒810-0041	福岡市中央区大名2-5-31	
					福岡市交通局施設部電気課	☎(092)732-4146 FAX(092)732-4199
熊本	準会員	三宅美智子	環境	連：〒862-0942	熊本市江津1-798-10	☎(096)370-6040
長崎	正会員	岩永 徹	建設	連：〒851-1132	長崎市小江原4-24-13	☎(095)842-0378
				勤：〒850-0005	長崎市西山本町5-28	
					太平洋技研(株)	☎(095)827-6585 FAX(095)827-2171
福岡	正会員	牧 君明	建設	連：〒761-8073	高松市太田下町2349-5-107	
				勤：〒761-8063	香川県高松市花ノ宮町1-7-17	
					(株)NIPPONコーポレーション四国支店	☎(087)862-1150 FAX(087)833-9414
福岡	正会員	川田 博見	水道総合	勤：〒803-0802	北九州市小倉北区東港1-1-18	
					日本下水道事業団九州総合事務所	☎(093)583-8931 FAX(093)583-3197
福岡	正会員	木崎 靖宏	森林	連：〒811-0201	福岡市東区三苦7-4-3	☎・FAX(092)606-3308
福岡	正会員	前川 文誓	建設	勤：〒810-0004	福岡市中央区渡辺通2-1-82	
					九州電力(株)土木部	☎(092)726-1758 FAX(092)771-9541
福岡	正会員	迫田 茂実	上下水道	勤：〒814-0103	福岡市城南区鳥飼4-16-22-201	
					(株)サコダバイオ研究所	☎・FAX(092)847-1499
福岡	正会員	桑鶴 公生	建設	勤：〒819-0046	福岡市西区西の丘1-7-1	
					東亜建設技術(株)	☎(092)892-7710 FAX(092)892-7730
北九州	準会員	川島 伸治	上下水道	連勤：〒806-0055	北九州市八幡西区幸神3-11-19コーポランド幸神II705	
					川島環境設計事務所	☎・FAX(093)233-3345
長崎	正会員	塚島 正文	農業	連：〒859-1504	長崎県南高来郡深江町丁7439-12	☎(0957)72-6526
北九州	正会員	安心院貴顕	建設	連：〒811-1203	筑紫郡那珂川町片繩北4-5-16	☎(092)952-7398
福岡	正会員	浅利 公博	建設	連：〒811-0212	福岡市東区美和台5-23-9	
鹿児島	正会員	河内山 進	農業	連：〒899-5341	鹿児島県始良郡加治木町木田908-1第2セレクト加治木102号	
鹿児島	正会員	指宿 博幸	衛生工学	勤：〒890-0064	鹿児島市鴨池新町1-1	
					(株)九電工鹿児島支店	☎(099)256-2161
熊本	正会員	中村 哲男	森林	連：〒861-2103	熊本市若葉5-11-68	
長崎	正会員	高木 辰治	建設	連：〒857-0342	長崎県北松浦郡佐々町田平野免	
大分	正会員	玉川 俊秀	農業	連：〒870-0952	大分市下郡北3-22-8-101	☎(097)568-2359
				勤：〒870-0856	大分市大字畑中799-1	
					太陽コンサルタンツ九州支社	☎(097)545-8755 FAX(097)545-8957

福岡 正会員 吉村 岳丸 森 林 連：〒812-0043 福岡市博多区堅粕4-16-21
 明治コンサルタント(株九州支店)

宮崎 準会員 草場 敏宏 建 設 連：〒884-0003 宮崎県児湯郡高鍋町大字南高鍋6949

鹿児島 準会員 有川 幸秀 建 設 連：〒890-0025 鹿児島市原良町136-4
 (有川コンサルタント) ☎・FAX(099)258-2978

福岡 準会員 伊藤 実 応用理学 連：〒812-0043 福岡市博多区堅粕4-16-21
 明治コンサルタント(株九州支店)

宮崎 正会員 出水 芳文 建 設 勤：〒885-0032 都城市中原町6街区7号
 (株都城技研コンサルタント) ☎(0986)23-0803 FAX(0986)23-1537

宮崎 正会員 瀬戸口章蔵 建 設 勤：〒880-8523 宮崎市大工町2-39
 国土交通省宮崎河川国道事務所 ☎(0985)24-8221 FAX(0985)31-9363

宮崎 正会員 三浦 昶 建 設 勤：〒889-1602 宮崎郡清武町大字今泉丙2559-1
 宮崎県土木建設技術センター ☎(0985)85-1515 TEL(0985)85-2991

宮崎 正会員 山下 博 農 業 勤：宮崎県農政水産部農村計画課 ☎(0985)26-7343 FAX(0985)26-7343

平成16年度会員名簿 追加

平成16年度会員名簿に記載漏れがございましたので、お詫びして、下記に掲載いたします。

うえだ かおる 植田 薫 19797 合格S62	部門：総合技術監理、建設 選択：河川砂防・海岸 他資格： 甲種火薬保安	〒816-0802 住所：春日市春日原北町3-10-1-301 所属：第一復建株式会社統括本部 〒812-0016 TEL(092)431-9180 FAX(092)431-0726 福岡市博多区博多駅南3-25-8
きゅうま こういち 久間 公一 51596 合格H15	部門：環 境 選択：環境保全計画 他資格： 公害防止管理者	〒862-0938 TEL(096)389-2478 FAX(096)389-2478 住所：熊本市長嶺東2-25-13 所属：(株九州開発エンジニアリング技術管理部 〒862-0912 TEL(096)367-2133 FAX(096)367-2158 熊本市錦ヶ丘33-17
たけなか ゆきお 竹中 幸生 28757 合格H5	部門：建設 選択：道路 他資格： 1 土木施工・1 造園施工	〒830-1111 TEL(0942)78-5443 住所：福岡県三井郡北野町大字千代島886-4 所属：(株間組九州支店営業部担当部長 〒810-8602 TEL(092)525-0733 FAX(092)531-4284 福岡市中央区薬院3-16-27
たけすえ しげる 武末 茂 42698 合格H11	部門：応用理学 選択：地質 他資格： 1 土木施工・地すべり防止 地質調査	〒816-0097 TEL(092)476-5287 住所：福岡市博多区半道橋1-4-10-704 所属：日鉄鉦コンサルタント(株九州支店技術本部 〒812-0013 TEL(092)451-6467 FAX(092)414-2826 福岡市博多区博多駅東1-10-35
たけすえ しげる 武末 茂 合格H12	部門：森林 選択：森林土木 他資格： 1 土木施工・地すべり防止 地質調査	〒816-0097 TEL(092)476-5287 住所：福岡市博多区半道橋1-4-10-704 所属：日鉄鉦コンサルタント(株九州支店技術本部 〒812-0013 TEL(092)451-6467 FAX(092)414-2826 福岡市博多区博多駅東1-10-35
わたべ ひでき 渡部 秀樹 合格H9	部門：建設 選択：施工計画 他資格： 1 土木施工・甲種火薬取扱 責任者	〒838-0107 TEL・FAX(0942)75-6514 住所：小郡市希が丘6-10-3 所属：三井住友建設(株) 〒810-8623 TEL(092)761-6044 FAX(092)761-0159 福岡市中央区港1-3-1
よしむら つとむ 吉村 努 合格H11	部門：航空宇宙 航空機(特にヘリコプタ)の 設計開発	〒862-0903 TEL・FAX(096)365-5930 住所：熊本市若葉2-9-14シティマンション若葉402 所属：崇城大学工学部宇宙航空システム工学科 〒860-0082 TEL(096)326-3111 FAX(096)323-1352 熊本市池田4-22-1

御協力いただいている 賛 助 会 員

……………〔福岡〕……………	大和コンサル(株)	九建設計(株)
日本総合コンサルタント(株)九州支店	アジアエンジニアリング(株)	日進コンサルタント(株)
(株)建設環境研究所	……………〔北九州〕……………	ダイエーコンサルタント(株)
(株)唯設計事務所	日本航測(株)	……………〔宮崎〕……………
日本建設コンサルタント(株)九州支店	大村技術士事務所	(株)弓場水工コンサルタント
中央開発(株)九州支社	(株)九州設計事務所	(株)ロードリバーコンサルタント
(株)ダイヤコンサルタント九州支社	九和設計(株)	(株)ケイディエム
日本工営(株)福岡支店	(株)都市開発コンサルタント	(株)親協
昭和地下工業(株)	(株)松尾設計	南日本総合コンサルタント(株)
第一復建(株)	(株)酒見設計	(株)宮崎産業開発
(株)松本組	(株)太平設計	(株)西田技術開発コンサルタント
(株)エスケイエンジニアリング	冷牟田設計コンサルタント(株)	(有)福島測量設計調査事務所
(株)東亜コンサルタント	(株)安川電機	九州工営(株)
(株)福山コンサルタント	(株)中村測建事務所	正栄技術コンサルタント(株)
(株)東京建設コンサルタント九州支店	環境テクノス(株)	(株)東九州コンサルタント
東亜建設技術(株)	……………〔佐賀〕……………	(有)日豊測量設計事務所
東邦地下工機(株)	(株)精工コンサルタント	日測コンサルタント(株)
大成ジオテック(株)	新九州測量設計(株)	(株)水理設計
富洋設計(株)九州支社	西日本総合コンサルタント(株)	(株)ダイワコンサルタント
九州建設コンサルタント(株)福岡支店	日本建設技術(株)	(株)白浜測量設計
(株)サンコンサル	(株)九州構造設計	(株)杉田測量設計コンサルタント
(株)橋梁コンサルタント福岡支社	新栄地研(株)	南興測量設計(株)
(株)アイ・エヌ・エー九州支社	……………〔長崎〕……………	(株)アップス
(株)九州地質コンサルタント	大栄開発(株)	(有)カツキ技術士事務所
(株)タイヨー設計	(株)実光測量設計	(株)共同技術コンサルタント
日鉄鉦コンサルタント(株)九州支店	西日本菱重興産(株)	(株)国土開発コンサルタント
(株)大建	大洋技研(株)	(株)外山測量設計コンサルタント
(株)エム・ケー・コンサルタント	(株)親和テクノ	(株)都城技建コンサルタント
(株)エス・ピー・エンジニアリング	(株)新栄設計事務所	(株)第一テクノコンサルタンツ
新地研工業(株)	……………〔熊本〕……………	……………〔鹿児島〕……………
(株)カミナガ	(株)九州開発エンジニアリング	中央テクノ(株)
平和測量設計(株)	アジアプランニング(株)	朝日開発コンサルタンツ(株)
(株)高崎総合コンサルタント	……………〔大分〕……………	(株)久永コンサルタント
西日本コントラクト(株)	松本技術コンサルタント(株)	コーアツ工業(株)
西鉄シーイーコンサルタント(株)	協同エンジニアリング(株)	大協(株)
町田電気管理・技術士事務所	(株)日建コンサルタント	(株)建設技術コンサルタンツ
日本地研(株)	東亜コンサルタント(株)	
第一設計(株)	九州特殊土木(株)	
九州環境技術研究所	大洋測量設計(株)	
西日本技術開発(株)	九州建設コンサルタント(株)	
(株)富士ピーエス	西日本コンサルタント(株)	
日本技術開発(株)	東洋測量設計(株)	

九州支部C P D研鑽会

九州支部主催C P Dの開催予定日は、議題A部門を中心に原則半期毎、第1月の第4土曜日です。今年、7月以降の予定が下記のように変更になり、それぞれ振替となります。ご了承ください。

- 4月:4月23日(土)メインテーマは“防災”の予定
- 7月:6月3日(金)「第9回西日本技術士研究・業績発表年次大会」(佐賀市)

○10月:10月19日(水)~20日(木)

「日本技術士会全国大会」(福岡市)

九州支部の連絡先変更

九州支部のF A X番号が下記のように変更になりましたので、お知らせいたします。

旧) F A X番号 新) F A X番号
092-432-4442 ⇒ **092-432-4443**

会誌“技術士”最近の主要目次

[P E] 技術士12・2004

- ・製造業の復興と技術士への期待/岸野清孝
- ・技術士倫理要綱は如何にあるべきか?/守弘栄一
- ・環境に配慮した国の農村振興施策の展開と動向について/北村純一
- ・人工漁礁/新井健次
- ・リスクマネジメントの進化—LCCからDCFへ—/中村孝明
- ・技術士の社会的知名度向上のための中小企業問題研究会・交流会/網倉聖紀
- ・「平成16年度新潟県中越地震」防災会議の設置/防災特別委員長 大島久
- ・第31回技術士全国大会(札幌)報告/全国大会実行委員会
- ・第34回日韓技術士会議報告/宮原宏

[P E] 技術士1・2005

- ・年頭にあたって/清野茂次
- ・科学技術創造立国に向けて—技術士への期待—/谷口一郎
- ・技術士よ! さあ立ち上がろう—ジャーナリストが見た“光と影”—/倉義巳
- ・新春座談会「技術士の夢、チャレンジ、魅力を語る」
- ・日本技術者はいい仕事を/佐伯昇
- ・MOT(技術経営)のすすめ—産学官士連携による新たな人材育成に向けて/荒野詰也
- ・産官学と技術士との合同セミナー/神田睦
- ・役員選挙関連規定の変更(概要)について

[P E] 技術士2・2005

- ・ニュートリゲノミクス/新井綜一
- ・製造物責任と現状最高水準技術の提供/佐藤国仁
- ・一般空調における湿度緩和空調方式/三好正夫
- ・建設生産における労働生産性向上策の開発と実践/渋谷貞雄
- ・構造改革特区の現状と今後の展望/紺野治夫・手塚和博
- ・日本医師会における生涯教育/橋本信也
- ・世界技術者大会(WEC2004)参加報告/稲本渡

編集後記

去る1月17日に技術士一次試験、2月18日に二次試験の合格者が発表されました。福岡の受験会場では、一次試験2,346名、二次試験146名(総監を除く)+90名(総監)の236名の新たな合格者が誕生いたしました。心からお慶び申し上げます。

昨年未発生したスマトラ島沖地震・インド洋津波は、過去に例を見ない規模で、自然災害の猛威をまざまざと見せつけられました。つい先ごろの新潟県中越地震をはじめ、世界各地で頻りに伝えられる地震情報には不気味さを感じますし、防災がこれまで以上に身近な問題となってきました。

支部の今年度のC P D研鑽会でもメインテーマに「防災」が掲げられています。会員の皆様の更なる研鑽が求められています。

また今年は、九州支部の最大行事であります「第32回技術士全国大会」が10月19日に福岡市で開催されます。現在、実行委員会で精力的に準備が進められていますが、会員の皆様の積極的な参加があっはじめて大会の成功があります。ご協力をお願いいたします。(棚町)

発行: (株)日本技術士会九州支部

九州技術士センター

〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街7-1
(シック博多駅前ビル204)

九州支部: ☎(092)432-4441

FAX(092)432-4443

E-mail: engineer@joho-fukuoka.or.jp

九州支部ホームページ URL:

<http://www.joho-fukuoka.or.jp/kigyo/engineer>

センター: ☎/FAX(092)432-4443

印刷: (株)川島弘文社